



## 首都圏初、平成30年度より開設予定 横浜市立大学「データサイエンス学部」設置に向け、始動。

横浜市立大学(学長：窪田吉信)は、平成30年度のデータサイエンス学部開設に向け、本日、文部科学省に設置届出を行いました。データサイエンスの名称を冠する大学学部としては、本学の設置する学部が、首都圏で初となります。近年、社会の様々な分野で急速に蓄積が進んでいるビッグデータの利活用を推進するため、医学・理学・経済学など多様な応用分野を持ち、融合型の教養教育を実践してきた本学の強みを活かし、データから新たな価値を創造するデータサイエンス人材の育成に乗り出します。

### 【特徴】

#### 1 首都圏初の、データサイエンス学部

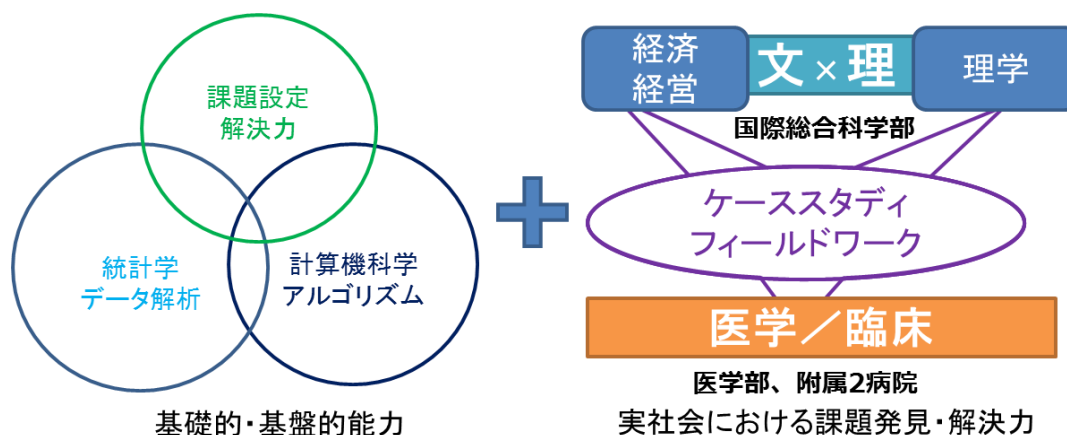
- ◇日々蓄積される膨大なデータから未来を拓くデータサイエンス人材を国際都市横浜から輩出
- ◇首都圏の医療活動や経済活動等の展開に伴って蓄積されるビッグデータやオープンデータの利活用

#### 2 医学部、国際総合科学部を有する総合大学としての基盤

- ◇課題発見・解決力の養成に取り組む文理融合型の学部教育を実践してきた実績を有する
- ◇医学、生命科学、理学、経済学、経営学、社会学など、データサイエンスに展開できる多様な応用分野を有する

#### 3 データサイエンス人材に不可欠な現場実践力を養成するカリキュラム

- ◇文理融合  
統計学、計算機科学をベースとしたデータサイエンスの専門教育に加え、文系・理系の枠組みを越えた教育カリキュラムを提供
- ◇現場重視  
企業や医療機関との連携を通じたPBL(Project Based Learning、課題解決型学習)により、実務を体験し、データが発生する「現場」の知識を学びながら、同時にデータ分析を通じたコミュニケーション力や課題発見・解決力を培う演習を豊富に用意
- ◇国際水準の英語力  
TOEFL-ITP500点相当以上を3年次への進級要件とした英語教育を課し、世界で活躍するためのコミュニケーションレベルを修得。



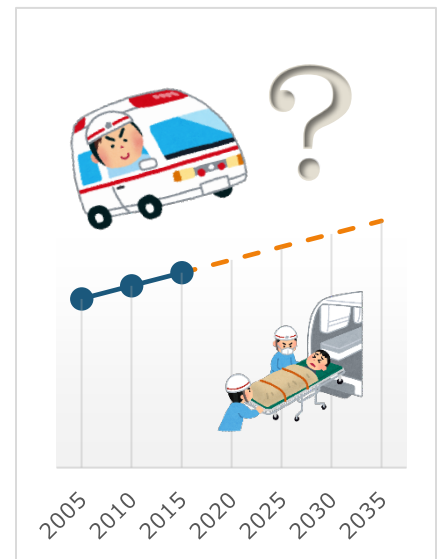


## データサイエンスにより救急需要を予測！ ～救急車の要請件数、これからどうなる？～

### 研究の背景

年々増え続ける救急需要にどう応えていくか？…それは横浜市消防局が抱える重要課題の一つです。課題を解決するには、消防局が保持している膨大なデータを活用し、未来の救急需要を予測することが必要です。

しかし、人口や高齢化の推移はもとより、在宅医療対象者の増加や、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催など、今後の社会情勢の変化がこの予測を困難にしている現状があります。そこで、複雑化する救急需要予測をデータサイエンスの手法を用いて解決するために、消防局と横浜市大医学部臨床統計学教室(山中竹春教授)の間で共同研究を実施することとしました。共同研究は消防局救急課が、横浜市大の窪田和巳助教や三枝祐助教と共に進めています。



### 共同研究に関する協定を締結

この共同研究を行うにあたり、横浜市と横浜市立大学が協定を本日締結いたしました。協定の内容は共同研究や研究成果などの公開についても定めたものとなっています（協定書別添）。平成 29 年末を目途に研究成果を公表する予定です。

### 研究成果を政策に生かす

救急需要の予測モデルをはじめとする研究成果は、救急車の効率的な運用やその他の施策に生かしていく予定です。分析に利用したデータについては、可能な限り公開する予定です。

#### お問合せ先

横浜市消防局 警防部救急課	救急課長	西川 浩二	TEL 045-334-6771
横浜市立大学 医学部臨床統計学教室	助教	窪田 和巳	TEL 045-787-2572



## I・TOP横浜「自動運転プロジェクト」始動！

株式会社ディー・エヌ・エー（以下、DeNA）との包括連携協定及び「I・TOP横浜」※に基づき、地域交通課題の解決を目指した「自動運転プロジェクト」を立ち上げます。

このプロジェクトでは、IoT等を活用し、将来の地域交通課題の解決を目指した自動運転の実証実験を目指すプロジェクトフィールド提供等の支援を行います。

今後、交通事業者や自動運転技術を提供いただく企業とともに、持続可能なモビリティサービスや物流サービスの実現を目指します。また、今回、DeNA との包括連携協定の一環により、金沢動物園（横浜市金沢区）において、試乗イベントを開催します。

※「I・TOP横浜」…IoT等革新技術を活用したビジネス創出等の推進システム（裏面参考資料）

### 自動運転プロジェクトの概要



#### お問合せ先

経済局産業立地調整課担当課長 立石 建 Tel 045-671-3913

※本件は、(株)ディー・エヌ・エー及び県と同時発表しています。

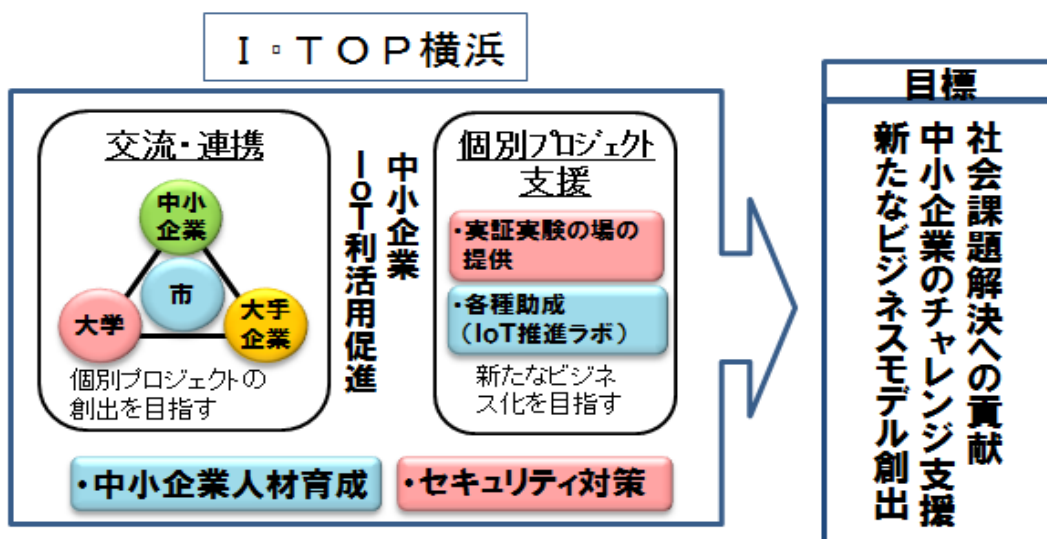
【裏面あり】

【参考】

1. 「I・TOP横浜」の概要

「IoT」「ビッグデータ(オープンデータ含む)」「AI」の産業利活用や新ビジネス創出を促進し、横浜経済の成長と社会課題解決への貢献を目指す取組として、  
「I・TOP(アイ・トップ)横浜～IoTオープンイノベーション・パートナーズ～」を実施

- (1) 中小企業とIoT関連企業との交流・連携
- (2) 個別プロジェクトのスタートアップ支援(データ活用ビジネス化支援も含む)
  - ・生産性の向上や販路開拓支援など 中小製造業の導入支援プロジェクト
  - ・「ドローンフィールド」の整備による操縦者の育成と新規ビジネスの創出
  - ・大規模商業施設「横浜ワールドポーターズ」や「パシフィコ横浜」におけるロボット活用等
- (3) 地元大学と連携した中小企業のセキュリティ対策・人材育成支援
- (4) IoT導入セミナー開催、IoT相談窓口の設置、展示会出展による販路開拓支援(IDECC)



2. I・TOP横浜の当面のスケジュール

平成 29 年 4 月 11 日～ 「I・TOP横浜」立ち上げ

企業・団体からの参画・提案、個別プロジェクト順次調整

5 月～ ホームページ立ち上げ

6 月 キックオフイベント開催(パシフィコ横浜)





# I・TOP横浜「未来の家プロジェクト」始動！

## ～IoTセンサーにより快適な環境を提案～

平成 29 年 4 月、IoT 等革新技术を活用したビジネス創出等の推進システムである「I・TOP横浜」を立ち上げたところですが、参画企業の(株)NTTドコモ及び and factory(株)からご提案があり、高齢者の一人暮らしや災害時対応の解決を目指した「未来の家プロジェクト」を立ち上げます。

このプロジェクトでは、IoT 等を活用し、快適で健康な暮らしをサポートし、将来の高齢者の一人暮らしや災害時の対応を目指すプロジェクトです。

今後、住宅メーカーなど協力いただける企業とともに、生活環境、住空間における課題の解決を目指します。

### 未来の家プロジェクトの概要



お問合せ先

経済局産業立地調整課担当課長 立石 建 Tel 045-671-3913

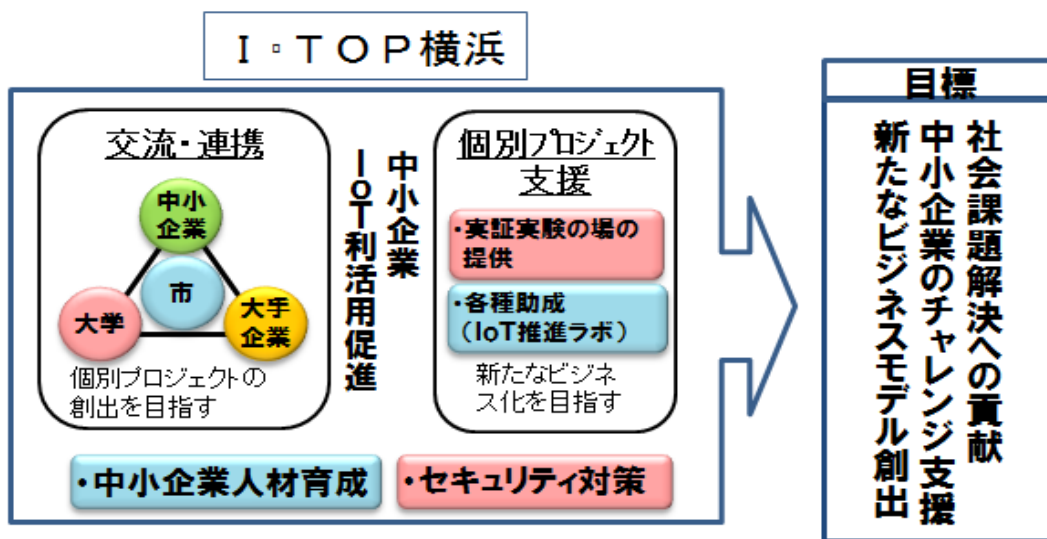
※本件は、(株)NTTドコモ及び and factory(株)と同時発表しています。

【裏面あり】



「IoT」「ビッグデータ(オープンデータ含む)」「AI」の産業利活用や新ビジネス創出を促進し、  
**横浜経済の成長と社会課題解決への貢献を目指す取組として、**  
**「I・TOP (アイ・トップ) 横浜～IoTオープンイノベーション・パートナーズ～」を実施**

- (1) **中小企業とIoT関連企業との交流・連携**
- (2) **個別プロジェクトのスタートアップ支援(データ活用ビジネス化支援も含む)**
  - ・生産性の向上や販路開拓支援など**中小製造業の導入支援プロジェクト**
  - ・「**ドローンフィールド**」の整備による操縦者の育成と新規ビジネスの創出
  - ・大規模商業施設「**横浜ワールドポーターズ**」や「**パシフィコ横浜**」における**ロボット活用等**
- (3) **地元大学と連携した中小企業のセキュリティ対策・人材育成支援**
- (4) IoT導入セミナー開催、IoT相談窓口の設置、展示会出展による販路開拓支援 (IDEC)





## I・TOP横浜によるタクシー配車アプリの 実証実験を行います！

横浜市は、IoT、ビッグデータ（オープンデータ含む）、AI の産業利活用や新ビジネス創出を促進し、横浜経済の成長、中小企業のチャレンジ支援と社会課題解決への貢献を目指す取組として、「I・TOP横浜」を立ち上げました。

「I・TOP横浜」では、自動運転、ドローンや住宅などに関する個別プロジェクトを立ち上げ、取組を行っています。

株式会社ディー・エヌ・エー（以下、DeNA）と横浜市は、相互の連携を強化し、地域経済活性化等に関する包括連携協定を締結しており、今回、IoT 技術を用いたビジネス創出等の取組の一つとして、DeNA と神奈川県タクシー協会は共同で実証実験を行います。

実験では、タクシーの利便性を向上させるため DeNA が新たに開発した配車アプリを使用します。

### 実証実験の概要



- (1) 実証実験期間：7月末～9月末予定
- (2) 対象エリア：中・西区・JR横浜線沿線（東神奈川～長津田）周辺  
※期間・エリアは変更となる場合がありますので、詳細はウェブサイトをご確認ください。
- (3) 実証実験に関する詳しい情報：<https://dena-taxi.jp>
- (4) サービスの特徴
  - ・iOS 端末向けアプリを通じて、タクシーを指定の場所まで配車することが可能です。
  - ・予想到着時間を事前に確認することが可能です。
  - ・周辺のタクシーの状況も可視化されるため、空車走行中のタクシーも見つけやすいです。

### IoT とは？

パソコンやスマートフォンなどの情報通信機器のほか、身のまわりにある家電製品、自動車、工場の機械などに感知機器・制御機器を取り込み、インターネットとつなげることで、生活や仕事の効率をよくするという考え方。Internet of Thing の略。



お問合せ先

経済局産業立地調整課担当課長 立石 建

Tel 045-671-3913



IoT Open Innovation Partners  
**I・TOP横浜**  
IoT オープンイノベーションパートナーズ

**DRONE**  
IMPACT CHALLENGE

## 「ドローンレースとキッズドローン教室開催！」 ～平成29年8月24日（木）10:00～@横浜赤レンガ倉庫～

「I・TOP横浜」参画企業の FPV Robotics 株式会社（ドローンインパクトチャレンジ実行委員会運営）からご提案があり、ドローン技術の普及促進を目指して、平成 29 年 8 月 24 日（木）10:00～17:00 に赤レンガ倉庫前広場でドローンレースとキッズドローン教室体験会を実施します。横浜市経済局はドローンレース及びキッズドローン体験会に後援を行います。

レースは無料で観戦が可能です。多くの方の来場をお待ちしています。

### ドローンレースとキッズドローン教室の概要

【Drone Impact Challenge 2017 YOKOHAMA】

日 時	平成29年8月24日（木）10:00～17:00
場 所	横浜赤レンガ倉庫前広場
内 容	キッズドローン教室（事前申込制：横浜市内小学生 50 人） 産業ドローンデモンストレーション ドローンレース：マスタークラス、レギュラークラス、TINYクラス
主 催	Drone Impact Challenge 実行委員会
運 営	FPV Robotics 株式会社
後 援	神奈川県、（一社）日本UAS産業振興協議会、横浜エフエム放送株式会社、 （公財）横浜観光コンベンション・ビューロー、横浜市経済局
入場料	無料

### 参加申し込みについて

- ドローンレースの参加 : 下記URL先のホームページにて申込ください。  
<http://dichallenge.org/>
- キッズドローン教室の参加 : 下記アドレスまでお問い合わせください。  
[info@dichallenge.org](mailto:info@dichallenge.org)

お問合せ先

経済局産業立地調整課担当課長 立石 建 Tel 045-671-3913



【開催チラシ（抜粋）】

横浜市の小学生のみなさんへ  
お知らせ

入場無料

ドローンインパクトチャレンジ2017では、ドローンのルールとマナーを学習して、ドローンにさわって、飛ばしてみることもできる楽しいイベントを開催いたします。ぜひ、会場でドローンについて学び、実際にふれてみてください。

ドローンインパクトチャレンジ2017  
8月24日(木) 10:00-17:00 横浜赤レンガ倉庫

DRONE  
IMPACT CHALLENGE



【過去の大会の様子】

